

駿河ほねほね団活動報告

佐々木彰央



ツキノワグマ



骨格標本ライブラリの編集作業

2017年8月現在、駿河ほねほね団は新たに7名が加わり、団員数は15名となりました。最近の活動は前回も書いたハクビシンの続き、骨格標本ライブラリの作製、ツキノワグマの骨格標本作製、夏の講座「魚の体について学び、頭骨標本を作ろう」です。

骨格標本ライブラリはアカネズミの成獣と幼獣の作製を進めており、現在2名の団員が専念しています。アカネズミの骨は小さく、撮影と画像編集に苦戦していますが、ホームページで公開されるのが楽しみです。

ツキノワグマは5月12日に運ばれてきた若いオスグマで体重は21kg。団員数が増えたこともあり1日でほとんど完成しました。現在は全ての骨をばらした状態で保管しており、今後骨格標本ライブラリに追加すると共に、2017年度日本哺乳類学会で発表する予定の「フォトグラメトリー」にもチャレンジしてみたいと考えています。

夏の講座は7月30日、8月4日、20日の3日間実施し、合計81名の参加がありました。講座ではサンマを使用し、魚の体について勉強すると共に、頭を切り取って骨格標本作製してもらいました。

以下に団員の感想を掲載します。

清水隆弘

5月より参加させていただいております。5、

6月はハクビシン、小熊と、除肉の作業を行いました。ひたすら肉を取り除くことになぜか興奮し、時間を忘れて夢中に肉を取り続けました。細かい部分（まだ序の口？）は、自分の不器用さに落胆しつつも、薬品の優れた能力に任せました。後日、仕上がった標本を見ると、改めて実物のもつインパクトを感じました。7、8月のサンマの頭骨標本作製教室、子供達に適切な助言ができたかどうかは反省が残りますが、細かい頭骨の構造を楽しみました。ほねほね団の活動は日々発見です。今後も楽しんでお手伝いさせていただきたいと思います。

榎本真司

7、8月に「さんまの頭骨標本づくり」を実施しました。今回は主に小中学生を対象とした標本づくりのお手伝いをしました。特異的な匂いを放つ生魚や薬品を前にして、苦戦を強いられる人もいましたが、「家でも作ってみたい」という声が多数あがり、嬉しく思います。

高山達子

サンマの標本作製講座のお手伝い。小さい子供達はちょっと細かい作業が大変そうでしたが、みんな楽しく、自分の作った頭骨標本に満足して帰って行きました。このような講座を通して骨に興味を持ち、将来のほねほね団員になる子が現れるのかな？楽しみです。